

# セルトラリン錠「科研」

を服用される患者さんと  
そのご家族の方へ



## セルトラリン錠「科研」を服用される患者さんと そのご家族の方へ

このおくすりを服用する際には、以下のことに注意してください。

### ● おくすりの服用について

- ・このおくすりは徐々にのむ量を増やしながら、患者さんに必要な量を調整していきます。症状を改善するためには、決められた量のおくすりを続けて服用することが大切です。
- ・このおくすりは、体調がよくなったと自己判断して服用を中止したり、量を減らしたりすると、些細なことでも心配になる、いらいら、あせりなどの症状があらわれることがあります。指示どおりにのみ続けることが重要です。

### ● おくすりの効果について

- ・このおくすりはのみはじめてすぐに効果があらわれるものではありません。この間におくすりの服用を勝手に止めてしまうと、おくすりが効いているのかどうか正しく判断できません。

### ● 服用中に注意する症状について

- ・うつ病やうつ状態の人は死んでしまいたいと感じることがあります。このおくすりをのんでいる間、特にのみはじめやのむ量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあるので、このような症状があらわれた場合には、医師に相談してください。
- ・不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合には、医師に相談してください。このおくすりとの関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する場や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。

## ●18歳未満の患者さんの服用に関する注意点

---

- ・6～17歳の大うつ病性障害、外傷後ストレス障害のある人がこのおクスリをのんだ場合、有効性が確認できなかったという報告があります。18歳未満の大うつ病性障害、外傷後ストレス障害のある人は、医師と十分に相談してください。

## ●ご家族の方のサポート

---

- ・ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来すなどの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、医師に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。

## ●気になる症状がある場合は

---

- ・おクスリののみ始めに吐き気、下痢などの副作用があらわれることがありますが、多くはしばらくするとおさまります。  
自己判断でおクスリの服用を止めずに、担当の医師に相談してください。

※この他にも気になる症状があらわれた場合は医師、薬剤師にご相談ください。

施設名:

科研製薬株式会社

2016年1月改訂  
TSRT-16A-15.0-D2